

平成27年度 宇部市インターネット市民モニターアンケート（第5回）集計結果について

■アンケート実施期間

平成28年1月22日（金） から 平成28年2月8日（月） まで

■内容

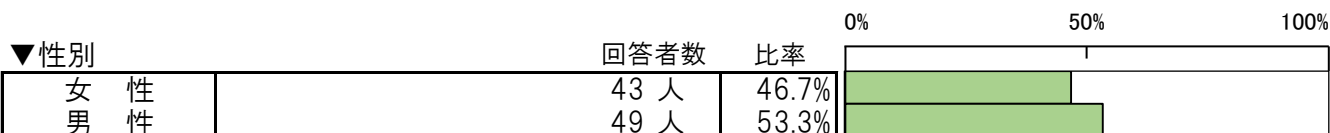
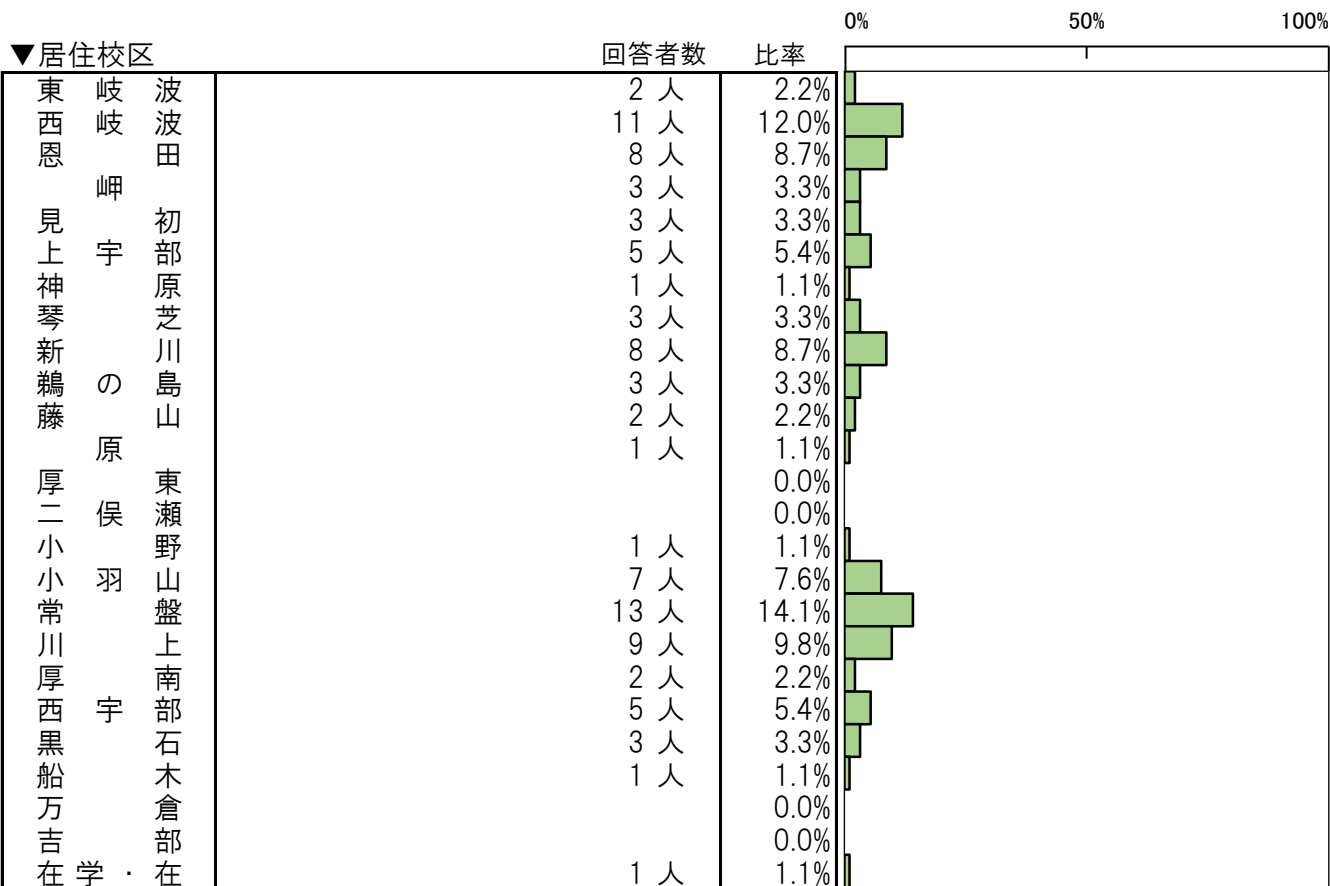
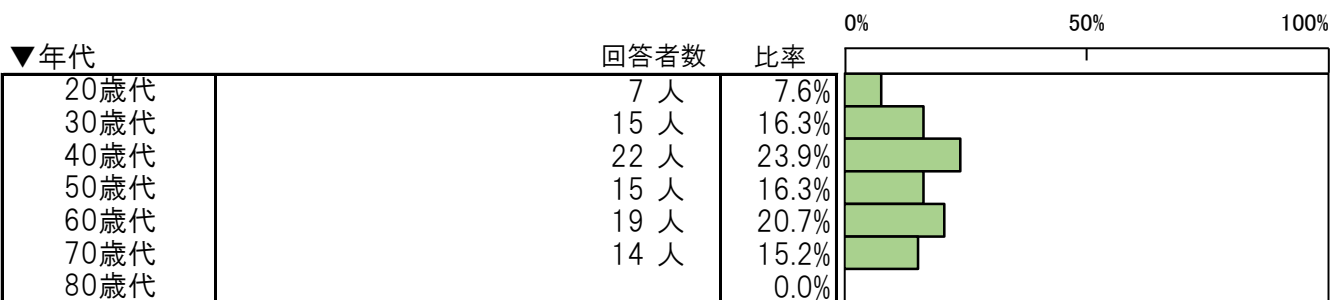
『防災対応について』 計15問

■モニター数・アンケート回答数

対象モニター数	294 人
回答数	92 人
回答率	31.3%

■属性集計

※端数処理のため比率の合計が100%にならない場合があります。



『防災対応について』

■アンケートの趣旨

前回（平成27年度第2回）のアンケート調査から引き続き、市民の皆さんの防災・減災に係る意識、対策等を具体的に確認するとともに、今後の防災施策の参考とするため、市民モニターの皆さんの御意見をお聴きしました。

■アンケート結果

※比率は、特に記載がない場合、全回答者数に対する割合を示しています。（全回答者数:N=92）

※単数回答であっても、端数処理のため比率の合計が100%にならない場合があります。

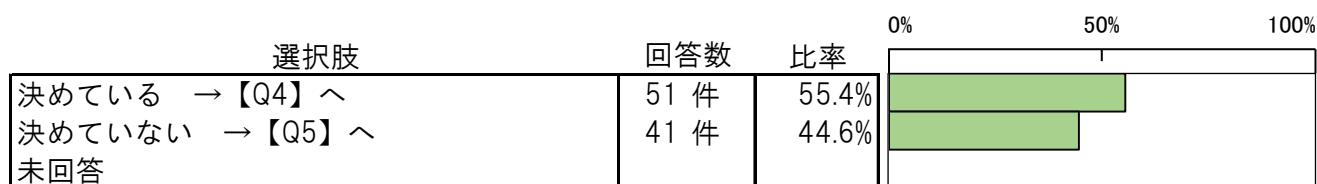
【Q1】お住まいの地域では、どのような種類の災害（地震、高潮、土砂災害など）に警戒しなければならないか知っていますか。



【Q2】災害が起こりそうな時、情報を入手する手段を決めていますか。



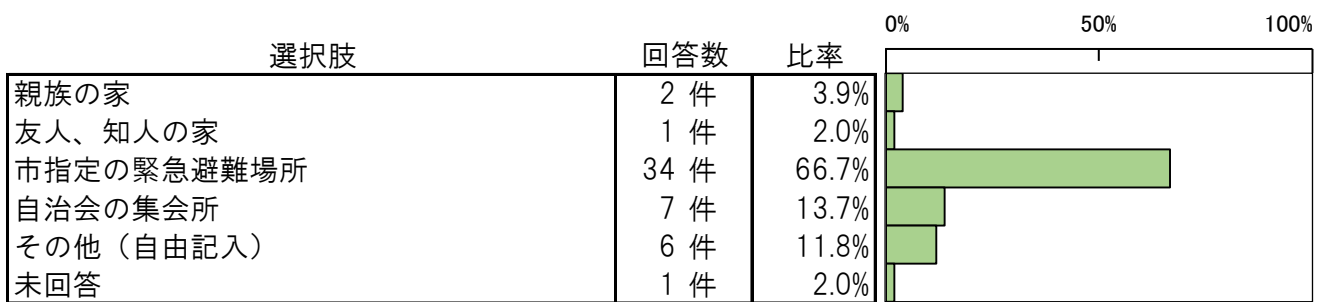
【Q3】災害種類ごと（地震、高潮、土砂災害など）に避難先を決めていますか。



※Q3で「決めている」を選択した方に伺います。

【Q4】決めている場合、その避難先はどこですか。

(N=51)



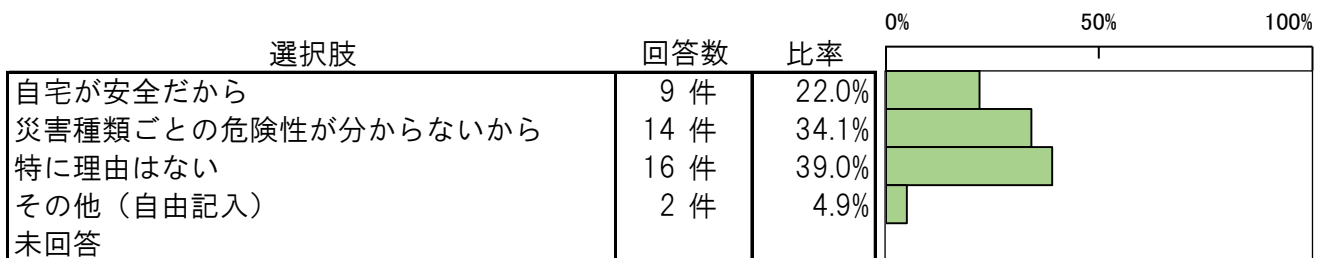
▼その他

- ・学校（4件）
- ・高台にある神社
- ・高台にあるグラウンド

※Q3で「決めていない」を選択した方に伺います。

【Q5】決めていない場合、その理由はなんですか。

(N=41)



▼その他

- ・災害種類ごとに分けるほど、避難先がない。

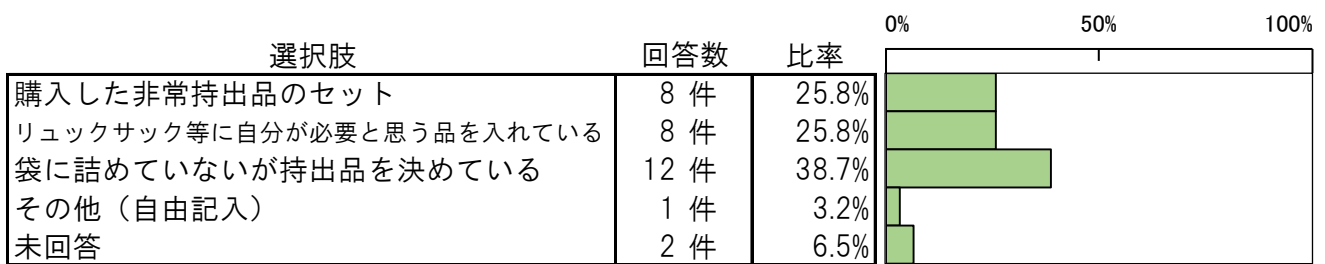
【Q6】災害時の非常持出品を準備していますか。



※Q6で「準備している」を選択した方に伺います。

【Q7】どのようなものを準備していますか。

(N=31)



▼その他

・ キャンピングカーに常備しているもの

※Q6で「準備していない」を選択した方に伺います。

【Q8】準備していない理由は何ですか。

(N=61)



▼その他

・ まだ緊迫感がない。
 ・ ピンとこないから。
 ・ 災害が来ないと思ってるから。
 ・ 非難しなければいけない規模の災害は来ない。
 ・ まとめて準備していないだけ。すぐに持ち出せる。
 ・ 買おう買おうと思いつながらまだ買えていない。
 ・ 考えています。まとめているところ。

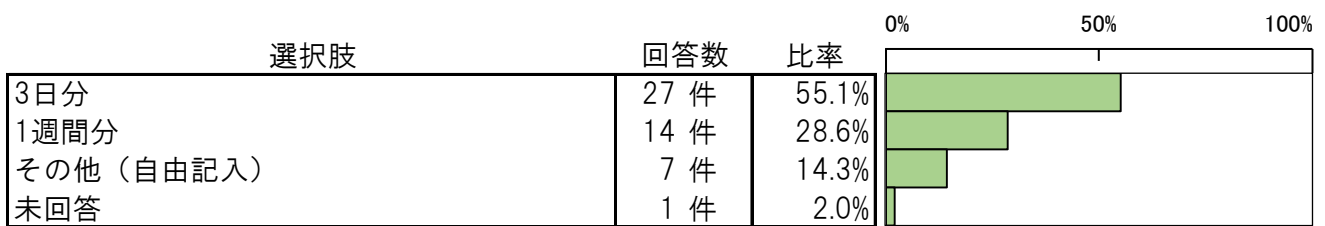
【Q9】食料・飲料水の備蓄をしていますか。



※Q9で「している」を選択した方に伺います。

【Q10】何日分を備蓄していますか。

(N=49)



▼その他

- ・井戸水が使用できる。
- ・2日分
- ・約2週間分
- ・種類によって1日から6か月
- ・1～2日分

※Q9で「していない」を選択した方に伺います。

【Q11】備蓄をしていない理由は何ですか。

(N=43)



▼その他

- ・災害が来ないと思ってる。
- ・野菜を自家栽培している。

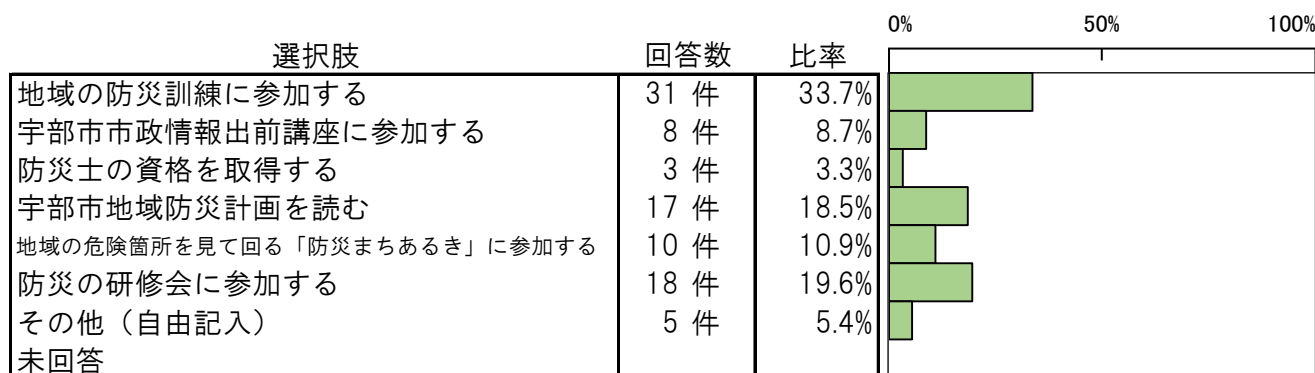
【Q12】平成27年8月～9月に実施した防災についてのアンケートでは、地域の自主防災組織を知らない方が過半数という結果でした。自主防災組織の認知度を向上させるためには何が必要だと思いますか。 ▽



▼その他

- ・ 細かな広報、啓発する。
- ・ 広報の徹底
- ・ 毎月の広報に専用のページを作る。
- ・ 訓練する前にまずは告知。知る手段がない。
- ・ 班長会か班の回覧板で知らせる。
- ・ 自治会単位の設定で学習会の開催
- ・ 自治会の回覧板、学校、企業でのチラシの配布
- ・ 理解できるように冊子にまとめて各家庭へ。

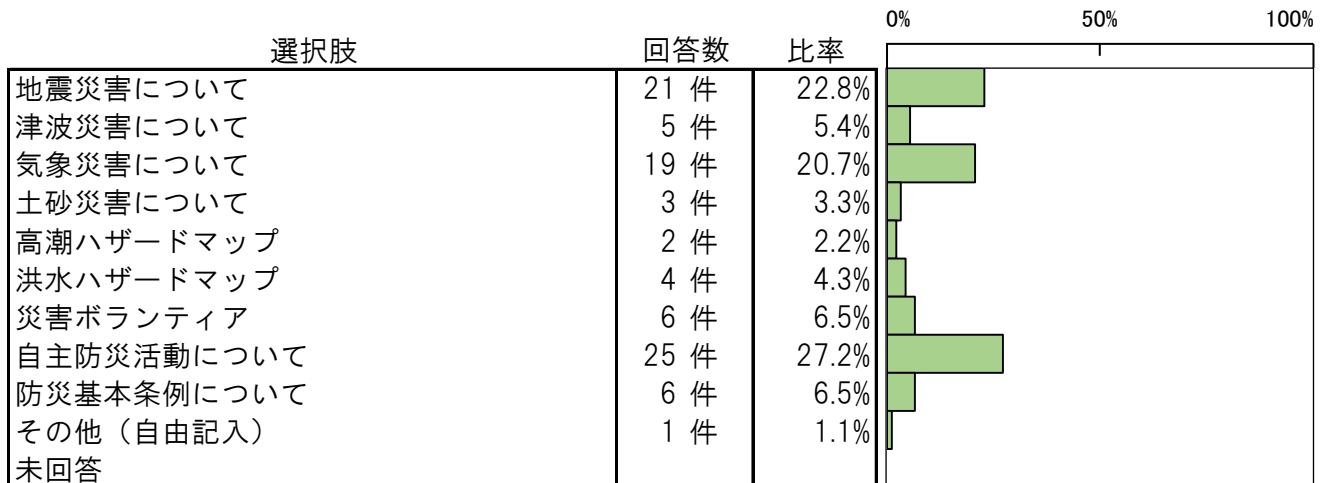
【Q13】防災・減災に関する知識等を得るために、あなたがしたいことは何ですか。



▼その他

- ・ インターネットで情報収集（2件）
- ・ あらゆる関連情報を積極的に入手する。
- ・ 企業での説明会に参加。
- ・ まとめたものを見る。

【Q14】防災危機管理課が実施する宇部市市政情報出前講座のうち、受講してみたいメニューは何ですか。



▼その他

・特になし

【Q15】防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

（別紙）

■担当課による総括

災害には地域特性があり、災害の種類ごとに避難の要否、タイミングを事前に考えておくことが必要です。また、時間帯や規模により避難行動もかわり、場面ごとに判断し行動することが求められます。そのためには、日頃から、少しずつでも防災について考えるという習慣を身につけていくことが大切です。

今回のアンケート結果から、多くの方が、普段から防災について考え、対策をとっておられることがうかがえましたが、一方では、まだ事前に必要な準備や地域の危険箇所などを把握できていないというご意見もありました。

災害時の避難先は、市指定の緊急避難場所に限りません。自宅が安全であれば留まることが最善の避難であり、安全な場所にある親戚、友人、知人宅等を避難先として決めておけば、自宅と同じように過ごすことができます。もちろん、市指定の緊急避難場所を利用することもできます。事前に、避難先や避難行動を決めておくことが大切です。

災害種別ごとの危険性を把握するためには、ハザードマップの利用が有効です。宇部市のホームページや防災危機管理課、各市民センターで閲覧することができますので、この機会に是非御利用ください。

また、市内で起きた過去の災害や、地域ごとの災害特性等を知るためには、市政情報出前講座を御利用ください。自治会単位に限らず、ご近所や知り合い同士でも、10人以上の参加者があり、場所の確保ができれば、曜日や時間帯を問わず実施可能です。

今回皆さまから頂いた御意見等を参考に、様々な機会を通じて防災意識の啓発に取り組み、防災・減災に関する施策を推進していきます。

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
1 防災訓練についてほか	70歳代	男性	私の地域は中高地に属しており、過去の経緯からして、安全な場所とされています。校区での防災活動は広報等で知らされていますが、私の自治会の方々はあまり興味を示されいないようです。半年前によく「緊急連絡網」の指示表が配布されましたが、指示命令系統も末端まで機能するかどうか不安です。向こう三軒両隣の付き合いのない地域です。地域によってかなり温度差があるように思います。自助・共助・協働 と言う言葉を知りましたが、私自身本当に地震発生したらどうしたらいいか分かりません。今している事はアンケートの設問以外では就眠時の落下物の確認ぐらいでしょうか。 防災に関していろいろ企画されていますが、何か型苦しい感じがするので、もっと気軽で参加できるイベント等があればと思います。また、自治会単位で消火訓練等行い、防災について勉強する場があればよいかと思います。
1 防災訓練について	40歳代	女性	海岸から離れた高台に自宅があるので、津波の心配はないと思っておりますが、その他の地震や、気象災害については十分に被害に会う可能性があります。3日分の食品の備蓄はあるものの、非常持ち出し袋に何を入れて良いか分からないので、市民を対象とした防災訓練、防災講座等があったら参加してみたいと思います。座学だけでなく、実際にシミュレーションが出来たら良いと思います。是非、各校区ごとに地震、津波、豪雨メインの防災訓練シミュレーションの開催を検討していただきたいと思います。
1 防災訓練について	40歳代	女性	日常が平和だと、防災に対する意識が薄くなります。何度か防災の学習会に参加して教わった避難時持ち出しグッズを作りたいと思いながら、まだ実行できていません。
1 防災訓練について	50歳代	男性	先日、地元で防災訓練が行われました。 私は別の用事が有り、参加出来ませんでしたでしたが、参加された方からいろいろ聞いてみると、「参加して良かった。」「実際に土嚢作りを体験出来て良かった。」と話しておられました。 近い将来起きると言われている、南海トラフもありますので、防災意識を高めるために、市内各校区で積極的に防災訓練が行われる事を望みます。
1 防災訓練について	70歳代	女性	台風などの現実感のある災害から訓練を重ねていけば、防災訓練の参加者も増え、認識度も上がるのではないかと思います。
1 防災訓練について	60歳代	男性	避難先の周知、水などの食料品や生活必需品の常備を自治会を通じて徹底すること。防災訓練はぜひ必要。
2 避難場所について	40歳代	女性	避難経路の途中に危ない場所があることと、避難場所の収容能力に少し疑問があります。
2 避難場所について	60歳代	男性	市街地はほとんどが海拔ゼロメートル地帯であるにも関わらず各校区の学校や市民センターが地震や津波の避難場所になっている。校区を超えた高台の学校や丘陵地を現実的に整備、指定すべきではないのか。

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
2 避難場所について	60歳代	男性	宇部は「海辺」。地形的に海拔が低く、江戸時代には海であった開作地が居住地となっているところが多い。藤曲、鶉の島、神原、厚東川流域、真締川流域、各港の近く等である。高潮、津波に対する海水流入に対する防災対策が特に重要。標高の高い非難所の整備と避難経路の徹底が必要。
3 防災啓発・イベントについてほか	30歳代	男性	本防災関連のアンケートに回答したくて、この度初めてモニターに登録し回答いたします。 宇部市ではハザードマップの策定やその周知などが図られています。また、市のあらゆる施設に「ここは海拔〇メートル」の標識などもあり、地震気象情報のメール配信サービスなども整備されています。しかし、そのような標識を意識して見たり、メール配信サービスを利用している市民は、かねてからそれなりに自然災害におけるリスクを考えている方々です（程度の差はあると思いますが）。今後は、普段、そのようなリスクについて考えたことのない市民に対する注意喚起や啓蒙活動が必要と感じます。 先日話題になった、東京都の発行する「東京防災」は非常に良い取り組みであると感じました。各家庭に配布することで、これまで考えなかった人々にも「考えるきっかけ」を与えたように思うからです。宇部市でも「宇部防災」のような防災に特化した書籍を発行しても良いと感じます。宇部は山も海もあり、化学工場もありますので、様々なリスクが潜んでいると思います。 個人的な見解ですが、防災対応の一助になればと思います。
3 防災啓発・イベントについて	20歳代	男性	ハードとソフトの両面から検討すべき課題で、減災出来るように危険箇所の補強工事を行ったり、市が危険地域の住宅を訪問して声かけをするなどして、地域住民に災害のリスク等を自覚してもらうなどの対策が必要だと思う。
3 防災啓発・イベントについて	20歳代	女性	防災時に最も不安なことは、交通・通信網の混乱です。宇部市は自家用車の保有率が高く、大災害が起こってしまった時には多くの方が自家用車で避難されると思います。また、高齢世帯も多いようですので、その方たちの安否確認のために周辺からも自家用車の流入が予想され、渋滞が起こってしまうことが怖いのです。東日本大震災の際にも、その後の大きな余震の際も、自家用車を使用しないという呼びかけがあったにもかかわらず、自家用車で避難する人が続出し渋滞が起こってしまったと報道で見ました。また、電話の回線もつながりにくくなります。宇部・山陽小野田市は救急車の不適切利用が全国と比較して多いようなので、特に心配です。大災害時に誰もが自分の身の安否確認に必死になり、手段を考える余裕がなくなってしまう心理はわかりますが、そうした交通・通信網の混乱によって、緊急の通報や緊急車両の通行が妨げられてしまえば、救えるはずの命が失われてしまいます。シミュレーションによる予測に基づき、災害直後の行動について、市民に地道な啓発活動を行うことが重要であると考えます。
3 防災啓発・イベントについて	30歳代	女性	防災に対して知っておきたい気持ちはある。平日は仕事で忙しいため、防災啓発のイベントは土日に開催してほしい。地域の祭りのときなどでも良いと思う。

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
3 防災啓発・イベントについて	40歳代	女性	<p>自治会や子ども会が必要ないという世帯が増えてきていると聞きます。</p> <p>自治会や子ども会は災害時等で一番頼れる会であるべきと思いますが、緊急事態があったときのマニュアルが全くないといっても過言ではありません。</p> <p>子ども会活動に参加する中で、自治会や市と連携して防災知識をもっともっと増やしていきたいと思いますが、全くそういう活動はありませんし、あっても「めんどくさい」という考えがはばかり、参加率はかなり低いです。</p> <p>災害がないのが一番ですが、無知でその日を迎えるより、最低限の知識は必要だと最近の各地の被害映像を観てつくづく思います。</p> <p>宇部は炭鉱の町で地盤も弱く、海も近い事から災害に対する知識を子供の時から習うべきだと考えます。</p>
4 研修・出前講座について	30歳代	女性	<p>住民の防災教育を行っていく必要があると思います。そのためには、地域で詳しい専門家を招き講演をしてもらったり、住民みんなが一体となって避難場所の確認や災害が起きたときの対応方法について知識を深めて行くことが大事ではないかと思います。</p>
4 研修・出前講座について	60歳代	男性	<p>自治会役員をしています。自治会内の危険個所について、自治会員による点検活動や対策を考えるワークショップを開催できたらと常々考えています。市政出前講座のメニューの充実を期待します。</p>
4 研修・出前講座について	60歳代	女性	<p>学習会のテーマが、水害や土砂災害などの具体的な災害を扱ったものや、自治会単位等で身近な危険として認識出来るものであれば参加者も増えるのでは？</p> <p>また、参加者同士の仲間意識が強まるのでは？</p>
4 研修・出前講座について	40歳代	女性	<p>山口県は災害が少ないと言われており、私自身を含め多くの人があるような認識を持っているため防災に対する意識が非常に低いと思う。</p> <p>地震や津波災害より、台風、洪水、土砂災害のほうが起きる確率としては高いのではないか。</p> <p>確率の高い災害から優先順位をつけて、適時に防災講座や研修などを行えば住民の参加も増え意識が高まるのではないか。（例えば入梅前に大雨土砂災害についての講座、梅雨明けに台風についての講座、など）</p> <p>関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災の日には地震や津波についての講座なども行うと良い。</p> <p>また、市役所内で時々パネル展示などを行っているが、市内のショッピングセンターなど多くの人が集う場所を積極的に利用するとよいと思う。</p>

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
5 地域での活動について	30歳代	男性	<p>宇部市は幸運にも近年大きな自然災害に見舞われていません。</p> <p>そのためか、私も含め、市民の防災意識が低いのが現状ではないかと思われます。近くの街で水害、土砂災害が起こっても、「喉元過ぎれば・・・」という様子です。</p> <p>行政も市民の防災意識を高める施策は十分に行っていることはわかりますが、市民レベルではやはりどこか「他人ごと」と感じている方が多数を占めるのではないのでしょうか。</p> <p>市全域での取り組みも必要と感じますが、もっと小さな枠組みである自治会等の会合の場で、その地区でリスクの高い自然災害の種類などを専門家が講話するような機会を設けてみるのも良いかかもしれません。</p>
5 地域での活動について	60歳代	男性	<p>地域の自主防災の活動がよく見えてこないのが、大変残念です。</p> <p>一部の人はやっているのですが、その広がりが見えてきません。</p>
5 地域での活動について	60歳代	女性	<p>昨年の台風時、朝、8時ごろ停電しました。</p> <p>懐中電灯、ラジオは用意していましたので、ずっと、ラジオで情報を聞いたり、スマートフォンでも中国電力に関する情報収集を続けましたが、「何世帯停電」という情報ばかりで復旧に向けての希望を抱かせる情報はひとつもなく、電気が点くのを今か今かと待つばかりでした。</p> <p>お昼になっても何も進展がないので、幸い、娘が来て、車で買い物に行ってくれたのですが、ご近所の一人暮らしの方は、食べる物がなかったと言っておられました。</p> <p>そういう時、どう、対処したらいいか、地域の協力が必要と思います。</p> <p>また、今回の大雪でも、水道管の破裂した所もあったようですが、その前の防災が必要と思います。</p>
5 地域での活動について	70歳代	女性	<p>以前、防災マップの配布があり、ポイントを知ることにより、その対応策が考えられた。地域の助け合い、独居老人をいかに助け合うかを話し合ったが、個人情報の問題があるとの意見がでた。</p> <p>老人自らがオープンにして、助けを求める意思表示がなされることが一番だと思っている。日頃から、「何かあったら知らせてね。夜中でも大丈夫ですよ。」など、日常会話の中にも一言添えている。</p> <p>去年、夜半にちょっとしたトラブルがあり、電話を受けて訪問して、対応。「遠い親戚より、近くの他人だね。」といわれて「他人じゃないよ、姉妹ですよ。」と行って笑って帰宅した。</p> <p>災害の少ない宇部ではあるが、常備品の点検表を各戸に配布して、リュックサックの用意を皆様に認識してもらいたいと思う。</p> <p>そのためにも、民生委員、福祉委員の活動を密にやるべきではと思う。</p> <p>ボランティアで会話するとき、気になる言葉が出る事がある。見守る心や災害時の心得を子供の頃から育てていくことを望んでいる。</p>
6 情報の不足等について	40歳代	男性	<p>防災マップ等を確認しておきたいが、知る方法が分からない。</p>

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
6 情報の不足等について	40歳代	男性	防災士という資格があるとは知りませんでした。
6 情報の不足等について	40歳代	女性	比較的温暖で災害の少ない宇部ではありますが、「過去の津波や高潮の時にはどこまで水がきたのか」などの実状を知りたい。
6 情報の不足等について	40歳代	女性	市からいろんな情報が提供されていると思うが、引き出し方がよく分からないので、どうすれば必要な情報を収集できるか勉強したい。 少しずつでも、災害時に役立つ備品を揃えていきたい。
6 情報の不足等について	60歳代	男性	地域毎の危険箇所、予想される災害、その対策及び災害発生時の避難場所等が分からず、高齢者世帯は特に不安を感じていると思う。防災、避難訓練、備蓄品についての教育、説明等は必要であると思うが実践されていないのが現状である。
6 情報の不足等について	60歳代	男性	地域自らのシミュレーションやケーススタディが必要ではないでしょうか。それによって、地域や各自が提供できること、提供してもらいたいことを明確にし、それを地域で共有することで、日頃の準備やいざというときの動きが効果的になるのではと思います。
6 情報の不足等について	60歳代	女性	防災についてマスコミでは大きく取り上げられるものの、どこか他人事、つまり「自分のところは大丈夫」という変な思い込みを持つ人が多い。それで、市や校区で主催する防災訓練や研修に積極的に参加する人が少ないのではないのでしょうか。 一番身近な自治会の自主防災組織があることも知っていますが、誰がどのようなことをしているのかさっぱり分かりません。 まずは回覧板で情報提供いただき、班長会を通じて周知徹底して欲しいと思います。
6 情報の不足等について	60歳代	女性	自宅は高所の賃貸集合住宅なのであまり心配がありませんが、いつどこで災害に遭遇するかは分からないので、自宅周辺の避難場所を知るだけでは不十分です。 東京都の災害マニュアルを見ましたが、参考になると思いました。しかし、もらってそのままゴミ箱に入れる人も少なからずおられたので、関心のない人は如何ともしがたいです。
6 情報の不足等について	70歳代	男性	警報などの発信方法が具体的に知られていないと思うので、TV、携帯、スマートフォン、自治会館の防災無線には、どんなときにどのように情報が入ってくるのか、一覧にして配布してはどうでしょうか。
6 情報の不足等について	70歳代	男性	町内会住民の家族構成、年齢、健康の程度等を町内会長、副会長、防災委員ぐらいまでにはデータとして持たせてもらえれば助かる。

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
6 情報の不足等について	70歳代	男性	大地震、大津波、大火事、台風、竜巻、高潮、大水害、土砂崩れ等を想定し、また地域の特性を考えた対策と対応が必要だが、自分の地域ではこういった対策が重要か十分に理解できていないので研修などで理解を深めたい。自治会を通じて情報提供してもらいたい。
6 情報の不足等について	70歳代	男性	避難するとき、市からの情報の流れがよく分からない。自治会や市の指示を待ち、従うのか、個人の判断なのか。
7 防災意識について	20歳代	女性	宇部市は地震が少ないイメージ。自分自身災害対策があまりできてない。
7 防災意識について	20歳代	女性	先日の台風により、会社の配管が破裂しました。いつ災害が来るか分からないからと言って、対策をしないわけにはいかないと感じていますが、自宅においてもまだ対策が来ていません。事前対策をしっかりと行い、何を備えるべきか学ぶ必要があると感じました。
7 防災意識について	30歳代	女性	分かってはいるけどなかなか備蓄などできていません。もしもの時に備えるようにもう一度考え直したいと思います。
7 防災意識について	40歳代	男性	山口県は災害が少ないので、安易に考えているところがあります。たしかに地震や津波被害の可能性は低いかもしれませんが、台風等の異常気象による被害リスクは高まっているように感じます。また付近は高齢者も多いため、自分だけでなく地域防災も考える必要があると感じています。
7 防災意識について	40歳代	男性	自分を含めて、まだまだ危機感を持っていないことが問題だと思う。
7 防災意識について	40歳代	女性	何気なく日々を過ごしています。何かあった時のことなんて、あまり考えていません。「考えなくて」と、頭では分かっているのに、何もしていません。
7 防災意識について	50歳代	男性	自分達の命は、自分達で守る意識が大事。
7 防災意識について	50歳代	男性	50年以上宇部で生活し、幸いにもまだテレビで見るような災害は身近で起きていません。そのため防災に関して少し油断しているように感じています。今我が家が行っていることは、少しの飲み物と食料、ガスのカセットコンロの常備くらいです。物資の流通がよく、便利な世の中になっていることも、防災に対する意識が希薄になる原因かと考えます。
7 防災意識について	50歳代	女性	防災対策をしなくてはいけないと思うが、住んでいる地区の災害についての知識が不足しているので、対策ができていないと自覚しています。9月1日には防災の報道をするので、防災用具を揃えておかななくてはと思うのですが、日にちが過ぎてしまえば、忘れてしまいます。このアンケートに答えて防災について考えました。人任せではいけませんね。

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
7 防災意識について	50歳代	女性	地震の可能性は低いと思うし、家が高いところがあるので高潮や津波の被害はないと考えている。災害は土砂崩れくらいかと思うので、大雨のニュースだけは気にしているというのが現状です。
7 防災意識について	50歳代	女性	大雨、台風など気象情報をチェックしていれば今の時代、大抵の予測は可能です。自分が住んでいる地域の特性は分かっていますので早めの対応が取れると思います。報道される各地の災害の様子では、皆が口を揃えて「まさかこんなになるとは思わなかった」「想定外」と言う。予測困難な地震などとは違い、リアルタイムで情報が得られるのだから、本人の自覚不足としか言えない。すべてを行政に頼るのはいかがなものか。
7 防災意識について	60歳代	男性	このところの多くの災害を目にして、防災関係の標識等を歩いていても確認ができる。しかし、防災対応が必要と自覚はあるが、「そんなに災害は発生しないだろう」という考えがあるので、事前に防災計画も考えず、なかなか前に進めていないのが現状。多くの人がそうではないだろうか。
7 防災意識について	60歳代	女性	家の立地場所から、土砂や豪雨の災害は可能性が低いと判断していますが、台風の「風」、地震は被害の可能性があるとと思っています。でも、何となく現実感がなく、自分自身「困ったもんだ」と思っています。まだまだ自分の足や車で行動できますが、「足が不自由になったときにはどうなるか」と、それはとても不安です。早めの避難しかないでしょうね。
7 防災意識について	70歳代	男性	宇部は比較的安全なまちだと思うので、防災に興味を持っている人が少ないのではないのでしょうか。
7 防災意識について	70歳代	女性	自宅のほうが安全だと思います。これまで、大きな災害がなく（台風被害はありましたが）暮らしています。そろそろしっかり防災対策について考えます。
8 その他の要望等	30歳代	女性	近所には畑を所有される方が多数おられ、枯れ木や草、家庭ゴミなどを平気で燃やしているお年寄りが未だに見受けられます。空気も汚れますし、臭いも酷く迷惑なのは勿論、「火事になったらどうするんだろう。」と思います。自治会長が回覧板で注意してくださいましたが、目を通されていないのか、「うちは大丈夫」と過信しておられるのか、全く改善されていません。地震や津波より、身近の火事について不安なので、個別訪問するなどして、条例違反についてもっと認知していただけるよう対策してほしいです。
8 その他の要望等	30歳代	女性	宇部市地域防災計画は、文章ばかりでとっつきにくいので、もっと分かりやすい図が公開されているとよいと思う。
8 その他の要望等	30歳代	女性	避難するべきか、家に居るべきかの判断が難しい。

【Q15】 防災対応について、あなたのご意見や思うことなどをご自由にお書きください。

分類	年代	性別	内容
8 その他の要望等	70歳代	男性	<p>まだまだ他人ごとのようにしか受け止めていないのが実情で、手始めに何をしたら良いのかさえ思い浮かびません。以前、自宅の高さが基準水位からどのレベルにあるのかを知りたくて、自分でレベル測量を行いました（100m先にある基準点から引き出しました。）。</p> <p>南海沖地震が発生した場合、宇部には4mの津波が予想されるとありましたから、単純に考え我が家には約1mの海水が押し寄せることが判り、家族で避難ルートを話し合いました。</p>
8 その他の要望等	30歳代	女性	<p>市で、非常持出し袋の購入斡旋をやってほしい。</p>